

JAL/ANA 客室乗務員採用の特徴(誰もが CA になれる時代)

航空経営研究所 主席研究員 光岡寿之

2014 年度の客室乗務員採用(新卒・既卒)は年初に予測した以上の大量採用が続いています。現在、JAL の既卒採用、ANA は今年 2 回目の既卒採用が進行中です。まず、この 3 年間の募集数を見てみましょう、

客室乗務員 募集数	JAL			ANA				合計
	新卒	既卒	合計	新卒	既卒①	既卒②	合計	
2012 年	200	400	600	400	50		450	1,050
2013 年	200	150	350	450	150		600	950
2014 年	200	100 (推測)	300	500	260	100	860	1,160

私は大学と専門学校で就職指導の仕事をしており、合格者の顔ぶれを見ている中から、JAL/ANA の CA 採用の特徴が見えてきました、今日はその話をしたいと思います。

かつて大手航空会社で採用を担当していた経験から言えば、良材の確保には募集数の 20 倍が必要です。

そして、推測ですが、今年の JAL/ANA 新卒の応募数は、8000~9000 名位と思います。

JAL 新卒は 200 名募集ですから 20 倍の 4000 人の応募があれば十分です、仮に ANA とのダブル合格で ANA 選択者が 100 名あったとしても、 $200+100=300 \times 20=6000$ 名ですから実応募数の方が大きいので問題ありません。

一方、ANA 新卒は 500 名募集ですので応募数は 20 倍の 10000 名が必要です。更に、仮に JAL とのダブル合格で JAL 選択者が 100 名あったとすると、ANA 新卒での応募数は、 $500+100=600 \times 20=12000$ 名が必要です。

整理すると、JAL は 20 倍以上の応募者があるので良材の確保に問題ありませんが、ANA は 20 倍を切っているため良材確保が厳しい状況になっています。

合格者のプロフィールを見てみると、JALは、全員が全天候型、いわば誰もが将来基幹要員となりうる人材です。

一方、ANAは、半数はJALと同じく全天候型ですが、残り半数は、極めてホスピタリティがある、極めて活動的、極めて語学ができる、極めてサークルで頑張ったなど、一芸に秀でた学生が合格を勝ち取っています。

次に、2社の選考方法の重視ポイントの違いから生じる2社の合格者プロフィールの違いを話しましょう。

ANAは、昨年まで、応募者学生のエントリーシートの提出を採用説明会に出席し、直接、ANA採用担当者に手渡すことを義務付けていました。これは実質的には1次面接と言えるもので、極力接客適性のありそうな学生を本面接に進ませる努力をしていました。さすがに今年は応募数が激増したので、JALと同じ書類選考方式に変更しましたが、それでも極力多くの応募者を本面接に進ませています。

つまり、ANAは“面接重視での選考”に重点を置いています。CAはサービス要員ですから当然の選考方式と思います。

一方、JALは20倍以上の応募数を余裕を持って確保しているので書類選考合格者の中から良材を選考することが可能です。

更に、総合評価においては、“面接と共に筆記テスト(一般教養力)を重視”しているのが特徴です。昨今の激化する機内サービス競争を勝ち抜くために、ホスピタリティと知力の双方に優れる者を選ぶ…これもまた時代に即した選考方式と思います。

もう一度整理して言うと、受験生にとっては以下のことが言えるのではないのでしょうか。

JALのCA受験には、“ホスピタリティ”の他に、“エントリーシートを書く知力”や“筆記テスト(一般教養・SPI)など基礎知力”が合格の重要な条件になっています。

ANAのCA受験は、現在の大量募集が続く間は、面接重視の採用が継続されるので、“ホスピタリティ”と“秀でた一芸”に自信のある学生に有利です。

さて最後になりますが、JAL/ANA 以外も含めた近年の国内航空会社 CA、外資系航空会社の日本人 CA の採用数は、合計で年間ざっと 2000 名です。これに競争率 20 倍をかけると 4 万人です。

近年の 22 歳の日本人女性は少子化に伴い 60 万人、平均身長以上の者が半数ですから 30 万人、更に大学への女子進学率は 45% ですから、CA の理論的応募対象者は 14 万人、同じ計算を 20 歳(女子短大進学率 9%/専門学校 15%)ですると 7 万人、22 歳/20 歳を合計して 21 万人、つまり 22 歳と 20 歳の日本人女性の 5 人に 1 人が受験しないと良材が確保できない募集数になっているのです。

言い換えれば航空会社としては、5 人に 1 人は受験してほしいのです。

年初の小文でも書きましたが、航空会社客室乗務員は、従来は「なかなか手の届かない憧れの仕事」でしたが、現在は真面目に努力すれば「誰もが手の届く仕事」になっているのです。女子学生の皆さん、是非、夢を実現しましょう！

以上